

令和2年度大学院授業評価まとめ（秋学期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	20660003	総合的病害虫管理学	19	12	63.2	4.55	アンケート回答率は63.2%と、昨年度より1.1ポイント低下し、また全体平均を1ポイント下回った。 本科目は複数の教員によるオムニバス形式で実施している。質問10項目のうち、9項目で科目群平均より高い評価値を、そして1項目で同じ評価値を示した。特に、授業者の特徴（教員の授業に対する熱意）、満足度については、それぞれ91.7%及び83.3%が5（強く思う）と回答していた。本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、すべてオンライン（同時配信型）授業となったが、双方向性も確保され、全般的に高い評価が得られたと判断する。	講義内容については本年度と同様に、充実したものを提供していく。一方で、受講した国際コース学生から、全て日本語での授業のためよく理解できなかったとの個別意見があったことから、講義資料に可能な限り英文を併記するなどの対応に努めたい。	特になし。
2	20660004	農業生物学特論	52	30	57.7	4.02	コロナ対応でオンライン形式あるいは部分的にe-learning形式の講義とした。全体的な評価は平均かそれをやや下回る程度であったが、オンライン形式であるため双方向性などにかける点があったため、この評価が低かった。またアンケートの回収率が6割未満であった。	オンライン形式を採用したが、まだまだ工夫が足りないようだ。特に学生との双方向性をどう確保していくかに改善点があると判断する。またアンケートの回収率を上げる必要がある。	
3	20660007	植物生産生理学特論	13	4	30.8	4.12	おおむね平均点と同等であったが、「授業の難易度」及び「教員の説明」が平均より高く、主体的学修と学習意欲が平均より低かった。学生の主体性に関連する項目で値が低かった。	学生との双方向性を高め、学生が講義に触発されて自発的に学習するように働きかけ、講義内容に興味を持たせるように講義内容・方法を検討する。	特になし
4	20660008	ゲノムサイエンスとエビジェネティクス	19	13	68.4	4.43	概ね、4以上の評価であり、学習目標の設定や授業の進め方は適切であった。	「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」や「この授業内容についてより深く学びたいか」などについては、一定数の3の回答があったため、次回の講義では、多様な研究室からの学生の興味を取り入れて対応したい。	
5	20660011	昆虫病理学特論	13	7	53.8	4.53	アンケート回答率は53.8%と、昨年度より6.4ポイント上昇したものの、全体平均を10.4ポイント下回った。 質問10項目のうち、6項目で科目群平均より高い評価値を、2項目で同じ評価値を、そして2項目で下回る評価値を示した。本年度は、昨年度と同様に昆虫病理学の専門書を使用してのレポート提出としたことに加え、新型コロナウイルス感染症のためにすべてオンライン（オンデマンド型）授業としたことが大きく影響していると思われる。	来年度も引き続き（オンライン授業以外は）同様の方法で実施するが、双方向性を重視しながら、受講生の興味・関心や理解度をより向上させるよう、説明の工夫に努めたい。	特になし。
6	20660016	植物環境調節学特論	14	6	42.9	4.58			
7	20660103	動物・海洋生物科学特論	22	13	59.1	4.45			
8	20660105	動物形態形成学特論	16	13	81.3	4.05	今学期の授業評価を見ると、評価項目の過半数において4以上の評価がなされていたが、双方向性の授業ではなかったとする評価が1/4の学生に見られ、最も低いスコアの一つになっていた。ただし、この授業は学生からのレスポンスを重視する性質のものではなく、テーマとなる学問分野の知見をなるべく多く紹介することを目的としているため、一方向性の座学にならざるを得ず、必ずしも低いスコアが悪いという評価は該当しないと考える。また、主体的学習、学習意欲に関する項目についても3.7というスコアになっており、この講義内容そのものに関心を持って受講した学生ばかりではなかったことが伺える。しかし、授業に対する満足度が科目群平均より低かったことから、次年度以降では講義内容を工夫する必要があるかもしれない。	自由記述欄に、「パワーポイントの説明がちょっと少なく、復習の時は悩みます。」とのコメントの書き込みがあったことから、資料の情報量について改めて検討したいと思う。また、授業に対する満足度がもう少し高くなるような改善策を検討したい。	
9	20660106	動物生殖生理学特論	15	11	73.3	4.26	全体的に得点が4を超えており、高い結果であった。学修マネジメントの得点が最も低かった（3.9）が“学生と教員とのやりとり”についてはコロナ禍では難しい状況であった。	後半講義の配布資料の修正を行う。	特になし。
10	20660107	筋肉・食肉科学特論	10	8	80	4.34	回収率は大きく改善されて80%であった。各評点は科目群の平均値とほぼ同じであり、特筆すべき点はない。3人の教員で分担実施しているので、講義全体をコントロールするのは難しい講義であると認識している。学生の学習意欲の刺激は平均を上回っていることは評価できる。	学生の学習意欲の刺激は平均を上回っているとの評価が得られているので、この講義の特徴として維持・発展させる。そのためには、最新の実験結果を取り入れて講義するスタイルを維持することは勿論、研究テーマの新奇性や独創性を説明しつつ、どのように解決しようとするのかそのプロセスを学生と一緒に考えることを継続したい。	特になし

令和2年度大学院授業評価まとめ（秋学期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
11	20660111	水圏生物資源環境学特論	25	25	100	4.23	学修マネジメント「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の数値が科目群平均より低い値を示した。コロナ禍でE-learning方式を採用した教員もあったためと考えている。主体的学修「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」もやや低かったが、それぞれが修士論文研究を行っており、自発的な学習意欲よりも、水圏の生物と環境を幅広く扱う講義内容を、将来に生かすことに主眼を置いており、特段、問題とは考えていない。	コロナがおさまっていた場合は、「双方向性」を意識した講義としたい。	
12	20661005	森林計画学特論	12	9	75	4.23	全体的には科目群平均に近い評価であったが、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」は相対的に低い評価であった。	「教員は、授業に対して熱意を持っていた」「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」について特に改善していく。	
13	20661006	山地防災学特論	16	12	75	4.30	主体的学修「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の項目を除くすべての項目において、75%以上の回答が5もしくは4であった。このことより、当該講義は概ね学生にとって満足のいくものと推測される。一方で、前述の主体的学修の項目は低い評価であった。これは既に研究分野が固まった大学院生に対して、山地防災学の有する魅力を伝えきれていなかったためと推察される。	基本的に2020年度と同じ構成とするとともに、他分野の学生にも魅力が伝わるよう工夫する。	オンライン講義で使用する動画について、ファイルサイズを小さくするなど、受講生のPC画面上にストレスなく映るよう工夫する。
14	20661008	造林学特論	11	6	54.5	4.18	シラバス、学修目標が大幅に平均を下回っていた。また、この分野を自発的に学ぶように触発できていなかった。	シラバスおよび学修目標は1から見直す必要がある。	
15	20661107	土壌学特論	10	7	70	4.62	本年度は、講義はオンライン配信（ライブ配信：MS Teams利用）のみで実施した。このため、板書が利用できず、またこれまでの講義スタイルを大幅に変えざるを得なかった。しかし、授業アンケートではすべての項目で平均あるいはそれ以上の評価が得られた。とくに、質問番号共-53「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」で5.0、質問番号共-68「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」で4.9、質問番号共-10「総合的に考えて、現在この授業に満足している」で4.9と評価が高かった。これらは、昨年度以前と同様の傾向であり、本講義のこれまでの長所が損なわれなかったものと考えられた。	本年度の本講義でも引き続き高い評価が得られているため、次年度以降もこのスタイルで臨むこととする。	
16	20661111	ポストハーベスト工学特論	10	7	70	4.50	オンディマンド講義ということで双方性に対する評価がやや低かったが、総合的満足度は全員が5と高評価であった。いくつかの項目で1名のみが1を付けるものがあった。他の受講生との評価がかなりかけ離れている点があったが、注意して行きたい。	コロナの状況にもよるが、対面やライブでの講義を取り入れ双方性を高めたい。	
17	20661305	森林バイオマス科学	18	11	61.1	4.37	リモート講義であったが、各担当教員が工夫し、受講者の興味を維持できる内容となった。	今年の経験を生かして、ハイブリッド型の講義も検討したい。	少人数の場合、リモートでの双方向性授業は容易であった。
18	20663003	遺伝情報発現制御機構特論	16	8	50	4.29	内容については全体的に高評価であったといえる。すべてオンライン授業であったため、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」という評価は他の質問に比べて低いが、全体を通して満足度も高く、学生にとっていい授業ができたと思う。	集中講義型に変更したため、お互いに長時間で疲れも出たが、教室変更や手続きの手間がなく、また集中して講義ができたことは、オンラインの良さもあったと思う。今後もオンライン・対面授業どちらであっても、講義に加え何か有益になる情報の提供を心がけて行う。	
19	20663005	海洋生命化学特論	16	8	50	4.59	多くの項目で平均を上回っていたのが、学修意欲に関する項目が科目平均を少し下回っていた。	大学院の授業ということで専門的な内容が多いが、受講生に授業内容に興味を持ってもらえるように取り組みたい。	
20	20663007	生物物理化学特論	13	10	76.9	4.32	総合満足度は高いが、個々の数値は平均よりも低い項目があり、改善が望まれる。	「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」の項目の評価点が特に低かったため、自分での学習を促すように改善する予定である。	
21	20663106	遺伝子情報制御学特論	19	4	21.1	3.85	全体的に、科目群平均より評価が低くなっているが、これは、急遽リモート講義へ切り替えたための準備資料の不足が原因と考えられる。	来年度リモート講義になる場合には、講義資料の充実を図り、理解度の向上に努める。	
22	20663115	発酵化学特論	14	4	28.6	4.57	昨年度はオンラインで英語の論文・総説を読む授業を行った。そのため、例年とは異なる内容となり、少し準備が足らなかったことを反省している。内容的には学生に興味を持ってもらいZOOMで質疑応答などを受けて満足のいくものであった。	次回もオンラインで実施するのか、現時点では不明なために、授業の内容について再検討したい。	

令和2年度大学院授業評価まとめ（秋学期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
23	20663302	食品加工学特論	26	11	42.3	4.26	回収率が42%と低かった。昨年度と同様に講義時間内に回答させることを失念していた。アンケート結果についてであるが、主体的学修意欲が特に低かった。これまでこの部分について低い評価となったのは、初めてであり、対策について検討したい。その他、双方向性についても低い評価であった。これらの低評価の一つの理由としてオンライン講義だったため、学生の様子が見えずに、一方向授業になってしまったことも考えられた。	主体的学修意欲を高めて双方向性を維持できるように準備したい。	
24	20665001	基礎統計学	17	16	94.1	4.56	16/17 (94.1%) of students answered the questionnaire.  Regarding learning design (共-51,53), instruction (共-68), characteristics of the teacher (共-81), Proactive learning (共-3), satisfaction (共-10), all the answers are Agree or Strongly agree.  Regarding learning management (共-60), instruction (共-67), Motivation to Learn (共-221), one answer (6.3%) is Neutral. Other answers are Agree or Strongly agree.  Regarding learning design (共-211), one answer is Disagree, one is Neutral; and the others are Agree or Strongly agree.  According to comments, two students want to have more exercises. One student wants to study about R software.	Give one exercise session	
25	20665007	フードサイエンス・システム論	15	14	93.3	4.33	本講義は、教員7名によるオムニバス形式の講義である。受講学生のうち食品を学部で学んだことのある学生は数名しかおらず、基礎とは言え、大学院の講義内容であるため専門外の学生には、生化学、化学の基礎知識も乏しいので理解が難しかったと思われる。	受講学生の専門性（専門外の学生が多い）を考慮してさらに講義内容の精査を行い、平易な内容で講義を行う必要があると思われる。今年はオンライン、オンデマンド講義を行ったが、音声による改正が少なかった事編f漫画あったので、対面で講義できない場合には、Zoomの利用や音声説明付きのパワーポイントファイルの使用などに務める事で対応する。	
26	20665010	農業生物学特論(国際コース)	14	13	92.9	4.50	今年度は、コロナへの対応のためオンライン形式の講義とした。全体的にどの項目も平均的かそれをやや下回るものとなった。特に双方向性や自学を促したかどうかの項目が低い評価となっている。	オンライン形式の講義に十分慣れていないせいもあり、改善点は色々あるように考える。双方向性を増やす工夫や、講義資料の充実をはかり、講義内容を改善した。	
27	20669901	機能性多糖分析学特論	16	14	87.5	4.74	今年度は、Microsoft Teamsを用いた遠隔授業を初めて実施した。授業の総合評価は平均をやや上回っていたため、講義の内容や資料等は、概ね支持が得られたと考える。授業出席は概ね良好であったが、質問が少なく、授業の双方向性が不十分であった。学生から要望のあったチャット機能の利用など、改善策を講じる。遠隔授業では、授業態度や理解度を推し量ることができなかったが、学生の学習意欲を高めるため、ニーズの調査や講義内容の更新と改善が必要と考える。	次期も同様の講義形式による授業の継続を予定するが、講義内容の大幅な見直しと改善を図る予定である。対面と遠隔それぞれに適した講義の方法を考慮し、学生の学習意欲と理解の向上に努める。また、学生に身近なテーマを盛り込み、投げ掛ける質問の内容を再考することで、双方向性を引き出す取り組みをしたい。	

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。（授業評価表の分析の提出がなかったもの除く。）

令和2年度大学院授業評価まとめ（冬学期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	20660009	昆虫多様性学	11	9	81.8	4.62	アンケート実施を周知したため、回収率が81.8と前回より高くなった。総合評価の平均点は4.7点と高かったため、内容については概ね満足していると評価できる。	少人数であるためセミナー形式で授業を進めているが、それに対する意見はなかったため、次年度も同じ形式で授業を進めたい。また、「自分で学習した」が4.4とやや低かったため、学生全員がさらに自主的に学習するように工夫したい。	特になし
2	20661007	林業経済学特論	13	8	61.5	4.50	全ての項目で平均4ポイント以上ではあり、双方向性、説明のわかりやすさ、総合満足度は1名を除いて5評価だったのに対して、学修デザイン、主体的学修、学修意欲については改善の余地がある。	相互に議論したり、身近な問題に引きつけて説明するなど主体的学修意欲に繋がる工夫を行いたい。	特になし
3	20661304	木質材料工学特論	17	13	76.5	4.01	主体的学修、意欲、などでの評価は比較的高いが、双方向性などが低い。	コロナ禍の影響もあったと思われるが、双方向性にはさらに注力が必要であり、改善を目指す。	
4	20661306	生体物質化学	15	13	86.7	4.24	サステナブル資源科学の中でも特に重要な「生体物質の化学」に焦点を絞り、基礎から最先端のナノ・バイオ研究までをオムニバス形式で講義した。新型コロナ感染症拡大防止の観点から、moodleおよびzoomを用いるオンライン講義を実施した。初回講義時に、本講義の学問背景と学びの方向性を定義づけるために、「序論：生体物質の構造と機能」を講義し、生物の動的な構造形成と機能発現の考え方・捉え方を理解させた。続けて、森林微生物の産生する生体物質、生体物質の化学、メディカルナノバイオテクノロジー、結言：森林に学ぶ生体物質化学を講義した。結果として、全ての評価項目について本学府講義科目の平均とほぼ同程度の評価を得た。オンライン講義ということもあり、双方向性の評価がやや低かったが、自由記述欄にも好評価があり、総じて学生にとって満足いく講義となったものと思われる。一部に、教員の準備不足を問う声もあったため、次年度に改善していきたい。	平成30年度の学府改組により新設した本講義は、当初は非常に厳しい評価であったが、年々向上しており、今後も改善に努めたい。オンライン講義については学生側から継続の要望があり、次年度も（コロナ禍と関係なく）オンラインで実施する可能性を検討する。オンラインでの質問を気後れするとの意見もあったため、チャット等を利用する方法を検討したい。資料配布など復習のサポートや、オフィスアワーの活用についても検討を図る。	
5	20663008	植物生理・生化学特論	11	5	45.5	4.39	概ね科目群平均と同じ傾向の回答であったが、シラバスの学習目標の明確性で少し低い評価であった。	シラバスの記載事項について、目標の明確性を上げる表現に改善する予定。	
6	20663009	比較免疫学特論	10	5	50	4.70	授業の双方向性が低いという評価が目立った。全ての講義をオンラインで行ったために、リアルタイムのQ&Aセッションが不足したためであると考えられる。レポート内容の指示をMoodle上で行ったが、これが講義最終回後になってしまったため、周知が遅れた。	次年度は対面で行う予定であるため、Q&Aセッションを充実させることができると考えられる。レポート内容の告知を早くに行う。	
7	20663305	食品栄養学特論	17	7	41.2	4.26			
8	20663307	食品工学特論	18	8	44.4	4.33	今回は遠隔で行ったため、あまり双方向性を取ることができなかった点が問題である。それ以外は概ね良好であった。	遠隔で行う場合、双方向性について検討する。	
9	20665003	生物資源論	20	18	90	4.31	コロナ対応でオンライン形式の講義とした。どの項目もほぼ平均的であったが、双方向性と自主性（自学）に関しては平均を上回っていた。	オンライン形式の講義に慣れてきたせいもあり、授業評価は前期に比べ改善されていた。しかし講義資料の充実などにまだ改善点があると思われるので、資料の充実をさらにはかりたい。	
10	20665004	地水環境論	13	13	100	4.38	コロナ禍で殆どの講義がオンライン講義となった。一部の学生には、時間帯などあり、適切に内容が伝わらなかった。	一部でもオンデマンド化を考えるか。	

令和2年度大学院授業評価まとめ（冬学期）

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
11	20665008	研究基礎概論	21	19	90.5	4.59	<p>授業の登録者数は21名で評価回収数は19名で回収率は90.5%であった。全ての評価質問において科目群平均より高い評価結果となっている。一番高い項目は、インストラクションカテゴリの「教員は授業に十分準備して臨んでいた」と授業者の特徴「教員は、授業に対して熱意を持っていた」が4.8、学修デザイン「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」、とインストラクション「教員の説明はわかりやすかった」が4.7であった。一方、低かったのは「この授業内容についてより深く学びたいか」が4.3であった。理由として考えられるのは、研究基礎概論で、講義が、研究を行う際の研究者としての姿勢や倫理といった内容と、実際に研究に活用できる研究ジャーナルデータベースや引用文献マネジメントソフトといった内容となっており、深く学ぶというよりも自分で活用していく内容となっていたからだと思われる。一方で、学修デザイン「授業の難易度は適切であったか」という質問に対して1名2：そう思わないという回答を得られた。難しすぎたのか、易しすぎたのかはわからないが、来年度に向けてよりよい講義を提供できるように講義コンテンツを精査したいと思う。</p>	<p>来年度に向けてよりよい講義を提供できるように講義コンテンツを精査したいと思う。</p>	

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。（授業評価表の分析の提出がなかったものを除く。）